

#2897 Rooster クローラー

NEWルースター・クローラー

NEWルースター・クローラーは、クローリング用に開発されたブラシモーター用アンプです。
この製品は、クローリング専用強力ドラッグ・ブレイキ（ニュートラルブレイキ）と大容量 6V/5A BECを装備致しました。
適正モーターは、55Tモーターです。使用用途にあわせクローラー 35T~ 85Tのモーターが選択できます。
なお、ルースター・クローラーには、ブッシュブレイキ（通常のブレイキ）はありません。
注意：使用限界モーター 27T以上、これ以下の高出力モーターではアンプが壊れます。

リポ用送電停止回路は、リポ・バッテリーへのダメージを防ぎます。

更に取替え可能なパワーワイヤー、コンデンサー、受信機ワイヤー、そしてアンプのスイッチでオンオフの切り替え可能な冷却ファン用の出力接続ピン等ファンクションが満載です！

スペック

入力電圧 . . . 4~ 7セル (1.2V / CELL / リポ 2セル)
リポカットオフ電圧 . . . 6.25V
ESC基板サイズ . . . 30× 39mm
重量 . . . 44.5g
BEC出力 . . . 6V / 1.5A
パワーワイヤー . . . 14GAシリコンコード
出力電流 . . . 前後進 400A
オン抵抗 . . . 前後進 0.0014Ω
モーター . . . 55ターン (35T~ 85T / 6セル時)
スロットル・プロファイル . . . 2種類
(Ni-Cd & Ni-MH バッテリー / リポバッテリー)
ファン出力電圧 . . . DC 6V

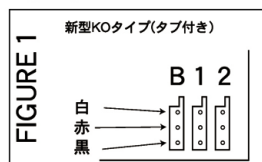
☆使用上の注意

1. ルースター・クローラー は水や水分を嫌います。また、基盤や外部に改造を加えないでください。故障の原因となります。
2. 使用時以外は必ずバッテリーを外しておいてください。
3. バッテリーは 4~ 7セル (1.2V / CELL / リポ 2セル)
4. 極性を間違えない様に配線してください。逆接をすると ルースター・クローラー が壊れます。
5. ルースター・クローラー には、ショッキダイオードは使用できません。
6. ルースター・クローラー には工場にてヒートシンクが装着されていますが、最高の性能を維持するために通風の良い場所に装着してください。
7. パワーキャパシターは純正の物を必ず取り付けてください。
8. 使用時には、必ず送信機側よりスイッチを入れ次にアンプを入れます。切る時は逆にアンプから先に切ります。
9. ターミナル部等でのショートを防ぐ為、各配線は収縮チューブで絶縁してください。
10. 本体に対して瞬間接着剤を使用しないでください。シンナー等でのケース洗浄によりケース表面を侵すことがあります。

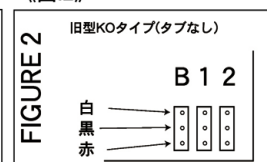
STEP.1

ルースター・クローラー の受信機ワイヤーが使用するレシーバーと同じ極性になっているかご確認ください。
もしも、違っている場合は図1~3を参考に正しく極性の順番を入れ替えてください。

《図.1》



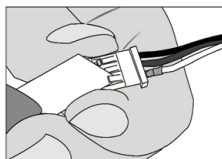
《図.2》



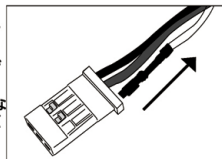
《図.3》 新型サーボワイヤーのコネクター・ピンの交換方法

*フタバへはそのまま使用できますが、サンワ又はKOの旧型受信器には極性が現在と違うものがあります。プロポ側の説明書と共によくご確認ください。

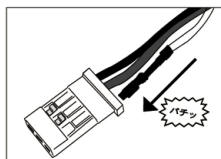
ワイヤーの引き抜き方



1. 引き抜きたいワイヤーのハウジングのツメ部分をカッターの刃などを用いて持ち上げます。
(この時、ツメを折らないように注意してください。)



2. ツメ部分を持ち上げたままワイヤーを引き抜きます。



3. 上図のようにコネクターをしっかりと差し込みます。
(逆接はとても危険です。故障の原因となりますのでよくご確認ください。)

ワイヤーの差し込み方

STEP.2 装着方法

装着においては出来るだけパワーコード、レシーバーコードから離して装着してください。

なお、装着位置は通風を考慮し両面テープで固定してください。パワーキャパシターもシャーシまたはメカデッキに両面テープで固定します。もしも、パワーキャパシターにへこみやパワーダウンが見受けられた場合には、早期の交換をお勧め致します。オン/オフスイッチはプラスチック部分の穴を利用してビスでメカデッキなどに固定します。

受信機のアンテナはモーターワイヤー、バッテリー、サーボからなるべく離れた位置にマウントし、短く切らずに立ちあげてください。

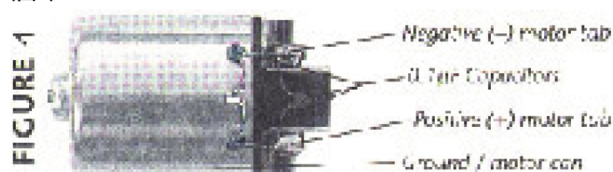
STEP.3 接続方法 (図4参照)

1) 付属の0.1mFモーターキャパシターを3ヶモーターに装着します。

英文の図を参考にして、プラスのモータータブからカンアース、マイナスのモータータブからカンアース、プラスとマイナスのモータータブどうしの3箇所ハンダ付けを行います。

2) ルースター・クローラー には、ショッキダイオードは使用できません。
絶対に取り付けないでください。

(図4)



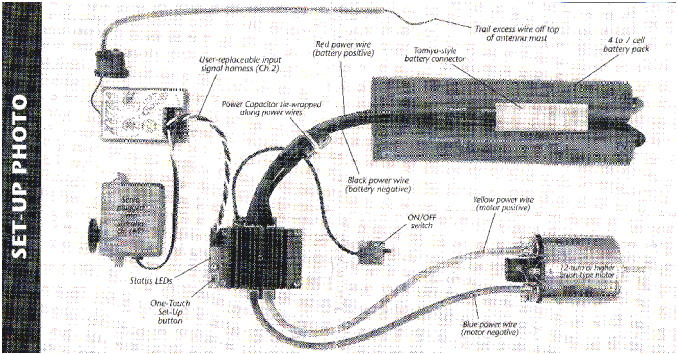
3). パワーキャパシターは必ず装着し、ご使用下さい。
パワーキャパシターは送電能力を最大限に保つのに必要です。取り外した状態で使用するとアンプが故障する可能性があります。

- 4). モーターへのパワーワイヤーのはんだ付け
A)アンプから出ている青と黄色のシリコンコードはモーター用ワイヤーです。
はんだ付けする場合先端の被服を約 4mm切り取り導線を出し、モーターのターミナルに正しくはんだ付けして下さい。
B)青いシリコンコードはモーターのマイナス極へ接続します。
C)黄色いシリコンコードはモーターのプラス極へ接続します。

5). バッテリーパックへの接続
コネクタにはタミヤタイプのコネクタが接続されています。十分充電された4〜7セル(12V/セル)または2セルのリポバッテリーパックを接続します。
必要に応じて大容量タイプのコネクタに変更することや、入力コードをバッテリーに直接はんだ付けすることもできます。
尚、上記入力コネクタの改造は保証対象外となります。

STEP.5 送信機のセットアップ

- A). HIGH ATVまたはEPAは最大にセットしてください。
B). LOW ATV、EPAまたはATLは最大にセットしてください。
C). EXPONENTIALは0にセットしてください。
D). スロットルのリバース・スイッチはどちらの位置でもかまいません。
E). スロットル・トリムはミドルポジションにセットしてください。
F). 送信機側の電子トリガーの割合は前進50%ブレーキ50%でセットします。
G). 送信機のトリガーは前進1/2、ブレーキ1/2でセットします。
送信機の切角確認方法
このステップは、最高のパフォーマンスを得るのに必要なもので、調整をしなくてもアンプは正常に働きます。



STEP 4初期設定
アンプと受信機を充電済みバッテリーに接続します。

- 1送信機のスイッチをオンにします。
2-3)送信機のスロットルはニュートラル・ポイントにし、
アンプ側のボタンを押し続けたままで、アンプのスイッチをオンにします。
4-5)レッドLEDの点灯を確認後、素早くボタンから手を離します。
6送信機のスロットルを最高速に移動し、グリーンLEDの点灯を確認します。
7送信機のスロットルをブレーキ・エンドポイントに移動し、グリーンLEDの点滅を確認します。
8送信機のスロットルをニュートラル・ポイントに戻し、レッドLEDの点灯を確認し完了です。
送信機の設定が変更されている場合、再度 1から 8の作業を連続的に行ってください。
何か異常がある場合はアンプのスイッチをオフにし、 1から 8の作業を再度やり直してください。

スロットル・プロファイル選択方法

アンプは、2つのファクトリーセット・プロファイルから使用特性の選択が可能です。
プロファイル1 前進、ブレーキ、後進 Ni-Cd & Ni-MHバッテリー
プロファイル2 前進、ブレーキ、後進 リポバッテリー用(リポ用送電停止回路作動)
工場出荷時には、プロファイル1となっております。

プロファイル	1 : 前進、後進	Ni-Cd & Ni-MHバッテリー
		90%ドラッグブレーキ(ニュートラル時)
プロファイル	2 : 前進、後進	リポバッテリー
		90%ドラッグブレーキ、リポ用送電停止回路

スロットル・プロファイル選択

- 送信機、アンプ、レシーバー、バッテリーを接続し、走行できる状態で作業を行います。
1送信機とアンプのスイッチをオンにします。
2アンプ側の横にあるボタンを2つのLEDが点灯するまで押し続けます。
3点灯を確認後、素早くボタンを離します。LEDの点滅回数により、どのモードを選択しているかが確認できます。
4モードを変更したい場合は、LEDの点滅回数を確認後、再度素早くボタンを押すことで、次のモードにカウントアップしていきます。
5選択したモードで確定の場合は 3秒ほど放置することで赤のLEDの点灯に戻り選択が完了します。

送信機なしでモード選択を行う場合

- 1アンプのレシーバーワイヤーをレシーバーから抜き取り、アンプのスイッチをオンにします。
2アンプ側の横にあるボタンを2つのLEDが点灯するまで押し続けます。
3点灯を確認後、素早くボタンを離します。LEDの点滅回数により、どのモードを選択しているかが確認できます。
4モードを変更したい場合は、LEDの点滅回数を確認後再度素早くボタンを押すことで、次のモードにカウントアップしていきます。
5選択したモードで確定の場合は 3秒ほど放置することで赤のLEDの点灯に戻り選択が完了します

リボ用送電停止回路

ルースター・クローラーは、リチウムポリマー電池使用時の安全性を向上させるスマート・リボ用送電停止回路を搭載したクローラーアンプです。
スマート・リボ用送電停止回路はアンプがモード 2 に設定されている時に機能します。

スマート・リボ用送電停止回路は、常時リボ電池の電圧をチェックします。
電池の電圧が限界値に近づくと、スマート・リボ用送電停止回路は送電を制限し、ピツという音を鳴らし始めます。
この音は電池の電圧が少なくなったことと、モーターへの送電を完全に停止することに対する警告です。

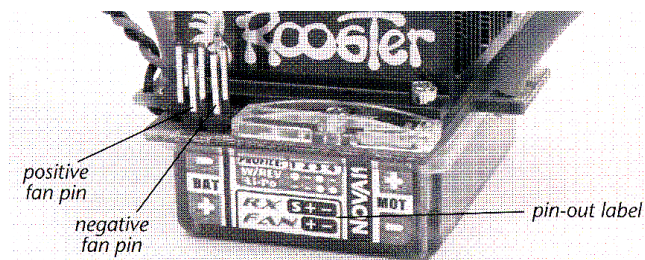
電池の電圧が限界値に達したとき、それ以下に電圧が落ちるのを防ぐ為スマート・リボ用送電停止回路は、モーターへの送電を完全に停止します。
スマート・リボ用送電停止回路が送電を完全に停止したら、再度バッテリーを充電しなおしてください。

バッテリーの特性上、休止したあとのバッテリー電圧は上昇し、短時間でアンプは再び正常に動作ようになります。
しかし、このような状態で使用しバッテリー電圧が再度、限界値に達することが何度も繰り返されるとバッテリーを損傷してしまう恐れがあります。
スマート・リボ用送電停止回路が送電を停止した後も、無理にラジコンカーを走らせ続けることは決してしないでください。

スロットルプロファイル・モード 2 で、Ni-CD や Ni-MH バッテリーを使用している場合は、スマート・リボ用送電停止回路が実際の使用可能時間より早く送電を停止してしまいます。
これらのバッテリーを使用する際は、アンプのモードを 1 に設定してください。

ファンの接続

ルースター・クローラーには、冷却ファン用の出力用接続ピンが付いています。
そのためモーター、アンプ、またはその両方に冷却ファンを取りつける事ができます。
アンプのスイッチをオフにすると自動的に冷却ファンもオフになります。



これらのピンの電力は 6.0V DC で（BEC と同様）、アンプを冷却することで、ルースター・クローラーの能力を発揮することが出来ます。

アンプケースの正面下方（ピン、ボタン、LED の下）にあるルースター・クローラーのピン出力ラベルには、ファンの出力ピンの場所と極性が表示してあります。冷却ファン出力用接続ピンは前方にある二つのピンです、左がプラス極、右がマイナス極です。その後ろの 3 つのピンは取替え可能な受信ワイヤー用のピンで、極性は前の二つと同様に中央がプラス極、右がマイナス極で、左のピンは信号極です。

ノバックの # 2483 30×30×6mm クリア冷却ファン ¥ 2180 は、ルースター・クローラーのヒートシンクに対応しているだけでなく、すぐに接続できるコネクタが装備しています。
適合するコネクタのないファンにはコネクタを用意するか、ピンに直接はんだ付けをする必要があります。
はんだ付けをする場合には、ピンや基板を必要以上に加熱しないでください。
そしてハンダ、ワイヤー、他のピン、ヒートシンクなどがショートしない様に十分注意をしてください。

☆その他、ご質問等がございましたらイーグル・サービスカウンター 0532-61-1554 までお気軽にお問い合わせ下さい。
☆修理サービスにつきましては、イーグル・サービスカウンターで行っておりますのでお問い合わせ下さい。
☆製品保証につきましては、一部アメリカ国内保証と異なりますが、ほぼノバック保証に準じて処理させていただきます。

保証依頼の場合はディーラステッカーと購入時のレシートが必要になりますので、ステッカーはアンプの側面に貼りレシートは大切に保管しておいて下さい。